

研究課題	社会生活で輝くデザインによって情報活用能力を向上
副題	～美術科で育むデザインの力を核にして教科横断的な学びを深める～
キーワード	デザイン、学習者用端末、社会に開かれた教育課程、教科横断的なカリキュラム
学校/団体 名	公立大阪府公立小・中学校美術教育研究会
所在地	〒586-0042 大阪府河内長野市日東町 26-1
ホームページ	https://www.osakaarts.net/

1. 研究の背景

当会は、大阪府公立小・中学校美術教育研究会（以下、府美研）という名称の通り、府下の公立小・中学校の教員が参加している。政令指定都市である大阪市と堺市の学校は属さないが、令和元年度で 879 校（小学校 591 校、中学校 279 校、小中一貫校 9 校）が所属している。現在、当団体が抱える大きな課題は、中学校の美術科教員減少のために各地区での美術教育の研究組織が衰退していることである。美術科の授業時数は、一昔前までは中学 1、2、3 年それぞれで週 2 時間ずつ、一学級あたり年間 70 時間であったが、現在は中学 1 年で 45 時間、2、3 年は 35 時間である。授業時数の減少ならびに少子化による学級数の減少により、各学校で必要とされる美術科教員数は中学校一校当たり 1 名、場合によっては美術科の教諭や常勤講師を置かずに、非常勤講師で対応する学校も出てきた。令和 3 年度末に本研究会が府美研所属の中学校（含む中学部）に中学部実態調査を行ったところ、208 名（286 校中）の回答があったが、「美術科教員が学校に 1 名」と回答した割合が 84%で、「2 名」と回答した割合が 15%であった。校内で 1 名だと教科会議をする相手もなく、教材研究は独学になりがちで深まりに限界がある。市町村や地区で美術科教員が集まって研修する機会がほとんどない学校もあるようで、府美研で研修企画を行い、そこで美術科教員としての資質・能力を磨いてもらえるよう活動支援する必要性が高まっている。そこで、令和元年度より、中学部独自で研修を企画するようにした。参加人数は 10 数名から 20 名程度でさびしい現状ではあるが、徐々に認知されてきている実感はある。この中学部研修を継続していく上での起爆剤として、パナソニック教育財団の助成事業としての研究を行うことを試みた。

その研究テーマを何にするかを府美研中学部内で検討した。現在、学校現場に求められている教育課題に向き合ったものにすべきと考え、などのキーワードを基に議論を重ねた。最終的には、生徒たちの『デザインの力』を育成すべき力に据えて、表現を通じて学びの深まりが図れる取組をイメージした。その結果、カラープリンタを美術室に設置して、学習者用端末で OUTPUT する方法でさまざまな授業実践を数校で実施する研究に決めた。デジタル作品をサーバー内やネット上で共有することはコスト面では効果的であるが、実際に人の目に触れるかどうかについては、紙媒体にして掲示の方が有効である場面も多い。学校生活・社会生活の中に生徒作品が掲示・展示されることで美術の魅力、デザインの魅力が発信される取組は、広く府下の美術科教員が参考にしたいと思える取組になるのではないかという仮説のもと、研究を進めることにした。また、令和 3 年 4 月に中教審答申で出された『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』に示された「個別最適化学び」にも適応する内容であるとも考えた。

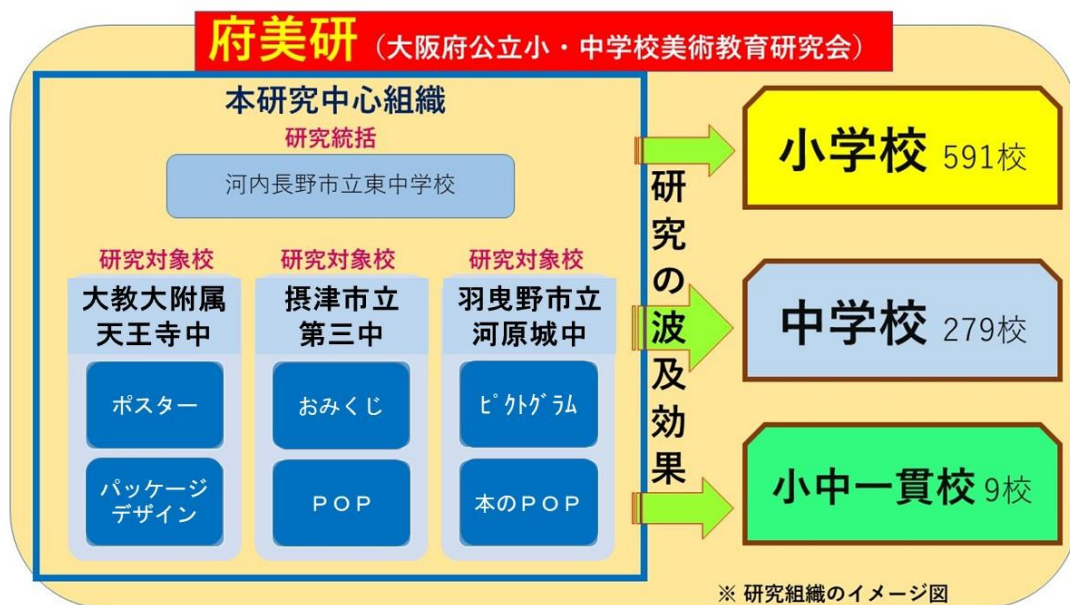
2. 研究の目的

STEAM 教育の理念の中に「ものづくりには科学的な知識だけでなく、根本的な教養や考え方、デザイン性などが必要」とある。そこで、美術科で育む『デザインの力』を核にすることで学校全体の教科横断的な学びが深まってくると実感できるような授業の提案を、府美研会員に対して行う。

それが、美術科の存在意義にもなり、本研究会の研修の活性化（内容の充実、参加者の増加）につなげるのが目的である。

3. 研究の経過

デザインの力を向上させることについて、次のように考えた。学習指導要領にある育成すべき3つの資質・能力で整理した場合、デザインについての「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」を高める中心的な時間は、美術科の授業である。一方、「学びに向かう力」については、授業だけでなく、日常生活でのデザインの魅力への気づきを利用する。なぜなら、デザインが実際に役に立つことを実感することで、デザインを学びたいという意欲が高まると想定されるからである。そのため、学校内などに掲示することを想定し、1人1台学習者用端末で思考を深めてデザインを作成し、その後、カラープリンタで紙媒体に出力する教材をいくつか設定して実践することにした。研究対象校については、研究プランを考えた中学部長の所属校をはじめ3校にしぼり、府美研副会長が研究統括を務めることにした。



研究経過は、府美研所属の中学校教員対象に①中学部夏期研修会、②中学部冬期研修会の場に行い、年度末の③府美研運営委員会の中で「中学部研究報告会」の時間を設け、小・中学校教員対象に研究成果を行った。その間に適宜、研究統括校と研究対象校でオンラインミーティングやメールを利用して情報交換を行った。

月	内容・方法	助成金使途
4	○カラープリンタ購入、設置（研究対象校に3台ずつ。研究統括校に1台） ○研究対象校において、担当教員が職員会議などでパナソニック実践研究助成校であることを周知【各校】	備品費） ・プリンタ 消耗品費） ・インク ・厚紙用紙
5	○第1回府美研運営委員会 【阿倍野市民学習センター】 ・府美研運営委員（約100名）に、中学部が本事業で研究することを周知 ・研究統括校、研修対象校が実践研究について打合せ。	
6・7	●作品制作【各校】（本のPOP、ポスターなど）	
8	★中学部夏期研修会「とびつきたくなる実践交流会」【大阪教育大学附属天王寺中】 ・研究対象校の1学期の研究結果と途中経過報告、今後の展望 助言…大阪教育大学表現活動教育系美術・書道教育部門 准教授 渡邊 美香 氏	謝金）旅費） ・指導助言者
9	●作品制作【各校】（パッケージデザイン、ピクトグラムなど）	
10		
11	○第50回研究大会冊子に中学部の研究経過掲載 【高槻市立五百住小学校】	
12	★中学部冬期研修会「先生のための鑑賞プログラム」【国立国際美術館】 ・研究対象校の2学期までの研究経過報告	その他） ・役務費…必要に応じて
1	●作品制作【各校】（おみくじなど）	
2	★第6回府美研運営委員会 【阿倍野市民学習センター】 ・研究対象校教員が成果報告	
3	○報告書作成	

研究過程において、中学部夏期研修会で大学教授に助言をしてもらったのは良かった。「自分がつくった作品を捨てるこどもを育てていいのか」という投げかけから、いくつかポイントを押さえて授業づくりの視点をもらった。「こどものやりたいこと、教師の教えたいことのバランス」が重要であるという話や、「プレゼンテーションを入れる」ことで自分たちが何をしようとしているかが高度になり、複雑な感情が生まれる。教師は「こどものこだわりをしっかりと評価すること」が重要でという話は、デザイン力が高める授業実践をする上で忘れてはならないことであると研究対象校教員で共通認識した。

とびつきたくなる 実践交流会
 2022年8月8日(月) 13:30~16:00
 会場:大阪教育大学附属天王寺中学校
 (〒543-0054 大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88)

研修内容

- ◎基調提案
羽曳野市立河原城中学校 教諭 中島 高 (中学部長)
- ◎中学部アンケートから見えてきたもの
大阪教育大学附属天王寺中学校 教諭 宮 昌大 (前中学部長)
- ◎7年目教員の実践
摂津市立第三中学校 教諭 中野 由里
- ◎参加者交流会
5,6人のグループに分かれ、参加教員が自らの授業実践を交流
- ◎指導助言
大阪教育大学 表現活動教育系 准教授 濱邊 美香 氏

開催に際して
 中学部では、5年5学期に府美研所属中学校にアンケートを実施させていただきました。その中の「研修テーマとして取り上げてほしいもの」という質問に対して、もっとも回答が多かったのは、次の2つでした。
 ★「子どもの興味や意欲を喚起する題材例などの紹介の講習会」
 ★「子どもの作品の評価についての講習会」
 そこで、基調提案や中学部教員の実践発表を交えながら、「子どもがとびつきたくなる」授業実践の交流を行い、3観点での指導と評価についても意見交換する機会にしたいと思ひます。気軽に参加してください。

参加定員40名
感染防止対策をして 参加型で授業実践を交流しましょう!

問合せ・申込先
 ◆河内長野市立東中学校 校長 内本年昭
 ◇TEL: 0721-62-2430
 ◇Mail: fubiken2021@gmail.com
 *できるだけメールにてお問合せください。

令和4年度 大阪府公立小・中学校美術教育研究会 中学部研修会

大阪府公立小・中学校美術教育研究会 中学部 冬期 研修会
 美術館での鑑賞教育に興味がある！
 でもどのように進めていけばいい・・・？

先生のための 鑑賞プログラム
 2022 12.27(火)
 13:30~16:30 頃まで
 国立国際美術館
 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 4-2-55

【研修内容】
 国立国際美術館で、現在開催中の特別展
 『すべて未知の世界へー GUTAI 分化と統合』展
 を鑑賞しながら、学芸員より鑑賞教育についての助言をいただきます。

指導助言: 藤吉 祐子 氏
 《国立国際美術館 学芸課 教育普及室長》
 美術館の教育活用を考えたい方や、
 まずは美術館を体験されたいという方も大歓迎です。

申込はこちら↓ Google Formにて
 12月15日(木)までに
 お申し込みください。
 ・参加費無料
 ・参加定員なし

リンク: <https://forms.gle/wLQpczGpWQdNVcSNS>
 府美研所属校であれば、小中学校の先生もご参加いただけます。
 問合せ先: 府美研代表メール fubiken2021@gmail.com

たくさんの先生方のご参加お待ちしております!

なお、本研究の充実とともに、中学部企画の研修会への参加教員の増加をめざしたが、8月実施の夏期研修会は20名、12月実施の冬期研修会は29名と、冬期については例年よりも多くの参加教員であった。

4. 代表的な実践

食品サンプル制作後のポスター制作

自分が設定した飲食店のイチオシ商品を食品サンプルで制作したあと、その作品の画像を取り入れた商品の紹介ポスターを制作。生徒はChromebookを使用しており、GoogleスライドやGoogleドキュメント上で制作したポスターデータをPDF化し、自身の学習者用端末からWi-Fi経由でプリンタへデータを飛ばして印刷した。

大阪教育大学附属 天王寺中学校の実践 食品サンプル制作後に 「お店のポスター」



大阪教育大学附属 天王寺中学校の実践 粘土で制作した石を 「石先輩図鑑」に



紙粘土に絵の具で着色した石の図鑑

本物そっくりりに粘土で成形して絵の具で着色して、自分だけの一握り大の石を制作。「石先輩」と名付けて図鑑の一ページにするという設定でプレゼンテーション。

パッケージデザイン&パッケージ制作

パッケージをデザインし、実際にそのパッケージを制作。家庭科と教科横断的に取り組み、調理実習で作るスイートポテトを持ち帰るためのパッケージとして完成させ、使用した。

大阪教育大学附属 天王寺中学校の実践

PCで展開図を作成
「パッケージデザイン」



おみくじ制作

美術部の生徒たちがオリジナルのおみくじを制作し、全校生徒に楽しんでもらえるように校内スペースに設置した。

おみくじのデザインは学習者用端末で行い、プリンタならではの利点を生かして、大量にプリントアウトして多くの生徒に楽しんでもらえるようにした。

摂津市立 第三中学校の実践 美術部「三中みくじ」



ピクトグラムで解決！身の回りのモンダイ

造形活動を通して他者と関わり、他者への働きかけを意識して行える力の伸長をめざして、自分たちの生活をふりかえって見いだしたモンダイをピクトグラムで解決しようという課題。学習者用端末を用いてスライドアプリで制作した。

羽曳野市立 河原城中学校の実践

タブレットPCと
スライドアプリで作成



気になる 手にとる 本のPOP

“朝読書”に取り組んでいる学校において、自分のお薦め本を後輩や同級生にも読んでもらうことを目的に、人を惹きつける広告文と、デザインを工夫して、学習者用端末を用いてPOP制作。校内だけでなく、市の図書館でも活用してもらった。

羽曳野市立 河原城中学校の実践

作成したPOPは
地域の図書館で活用



5. 研究の成果

学習者用端末で情報収集し、その情報を活用しながらイメージを広げて思考していくことは、デザインの力を培う上で有効な手法の一つだということが生徒たちの様子から感じ取れた。それは、端末が無かった時代に授業を行った経験がある教員の主観的な感想と思われるかもしれないが、多くの教員が感じていると思われる。ある主題を追求しながら、“ネットサーフィン”

するうちに、生徒たちは自分のアンテナにひっかかる情報を大人が考えている以上に効果的に集めてくる能力がある。

イメージを作品としてデザイン表現していくことについても、端末の利点は感じられた。デザイン作品では、“手描き”が味のある表現として使える一方、安定した線やムラのない着色など、他者へ意図を伝える際にはある一定の完成度が必要となる。そのために、「絵筆で描き着色すること」と「端末で作図し、印刷する」といったそれぞれの特性を、生徒が主体的に選択できるようにすることが大切である。その自由を保障する環境こそが、個別に最適な学習であると考えられる。とくに、絵を描いたりすることが苦手な生徒にとっては、意欲的に取り組みやすい方法であると再認識することができた。

6. 今後の課題・展望

令和元年一部改訂の文部科学省が定める中学校教材整備指針によると、プリンタは「学校全体として1台」という基準になっている。中学校美術科の整備指針には、「美術関係ソフトウェア（ペイント関係や画像編集関係ソフトウェアなど）描画用ソフト」が学校で1つとなっており、美術科で

PCなどを使って描画する授業は想定されているにもかかわらず、プリンタが美術室に設置されていることは書かれていない。今回、生徒作品をすぐにプリントアウトすることで生徒が主体的に学習に取り組む態度が見えたので、整備指針の改善を要望したいと感じた。

また、本研究では、家庭科と連携して、調理実習でつくるスウィートポテトを入れるパッケージデザインをする課題があったが、生徒たちが作品制作をより具体的な場面を想定してできるように、さらに教科横断的な視点で課題設定していく必要があると感じた。

なお、プリンタ出力は、インク代のコストがかかるので、それを見越した予算執行を計画していかなければいけないという課題も明確になった。

7. おわりに

美術科教員は、いわゆる“手仕事”の部分の鍛錬を子どもたちにさせる役割もあると思うが、これからの時代の美術は、「つくる」、「みる」、「ささえる」の3つの視点が大切だと考える。つくる楽しみや喜びだけでなく、美術を味わって鑑賞し、美術文化が豊かになるように支えるような生徒の育成をめざしたい。その一助として、学習者用端末の効果的な活用や表現方法の選択肢を広げられるような授業展開を考え、絵を描くことが苦手な生徒であっても、デザインに対しての高い関心を育めるようにしていきたい。社会生活をデザインの視点で見れる人間になれば、これからのグローバル社会において、楽しく、幸せに過ごせるのではないだろうか。

8. 参考文献

- ・『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（中教審）・中学校教材整備指針（文部科学省）

研究主題

社会生活で輝くデザインによって情報活用能力を向上
～美術科で育むデザインの力を核にして教科横断的な学びを深める～

成 果

- ・タブレットPCで情報収集・活用しながらイメージを広げ、デザインに関する思考力を高めることができた
- ・絵具等での着色作業時間を短縮し、プリンター出力で紙媒体へ実在化かつ掲出することは、効率よい表現方法と再認識

課 題

- ・中学校教材整備指針の美術科備品としてプリンターが必須か
- ・教科横断的な活用の深化 ・プリンターのインク代コスト